

湯浅伝建地区保存協議会 役員会を開催しました

日時：平成29年7月18日（火）午後7時30分より
場所：北の町老人憩の家
出席：木下会長、太田副会長、半邊副会長、事務局3名
内容

1. 平成29年度 各部会の取り組みについて

【10周年記念冊子編集部会】

年内完成を目標に部会を都度開催し、役割分担などを決め、より良い記念冊子をつくっていききたい。

【まちなみ整備部会】

全国の他の伝建地区の取組みなどを知る勉強会を開催し、湯浅においてどのような取組みが必要であるか意見を出し合いたい。

【施設運営部会】

甚風呂旧借家棟の工事が進行中です。今ある甚風呂を含め、今後どのような展示方法にしていけるか、また、展示物の整理や移動についても検討していきたい。

【まちなみ瓦版編集部会】

基本的には隔月発行ですが、お知らせすべき事柄が多い場合は続けて発行もしていきたい。

2. 伝建制度の周知徹底について

重伝建選定から10年が経過し、改めて制度についての理解を深めていきたい。今後代替わりのことも考えないといけない。そのための周知と、方策を今年度進めていきたい。

湯浅伝建地区保存協議会

まちなみ瓦版に皆様のご要望などを掲載していきたいと思えます。ご意見・ご要望などございましたら、保存協議会委員まで連絡をお願いします。

■ホームページ <http://www.eonet.ne.jp/~denken-yuasa>

編集委員

半邊 宗五 楠山 吉雄
油谷 太一 妻木 良三
阿瀬 雅晴 道津 節子



10周年記念冊子編集部会委員

北町	北浜町	北中町	北鍛冶町
太田 庄輔	半邊 宗五	木下 智之	三橋 雄作
	宮井 美宏		石垣 善朗

まちなみ整備部会委員

北町	北浜町	北中町	北鍛冶町
上野山 実	出原 美男	陣座 優	三橋 雄作
蔵野 博文	土岐 祐司	本下 直行	木村 一
酒井 弘雄	堀尾 哲夫	池上 信地	吉本 博一
竹中 健時			
都築 豊			

施設運営部会委員

北町	北浜町	北中町	北鍛冶町
太田 庄輔	新網 恒弘	上野 貞代	竹田 滋子
加納 誠	若狭 幸子	竹中 宏	白子 順子
加納 芳明	井戸端 秀樹	藪本 良雄	藪野 薫
松下 昇		木村 順子	大浦 正博
見矢 義夫			

まちなみ瓦版編集部会委員

北町	北浜町	北中町	北鍛冶町
楠山 吉雄	半邊 宗五	妻木 良三	道津 節子
	阿瀬 雅晴		
	油谷 太一		

※塗りつぶし部分は部会長

まちなみ瓦版

■平成29年 8月 1日

■第35号

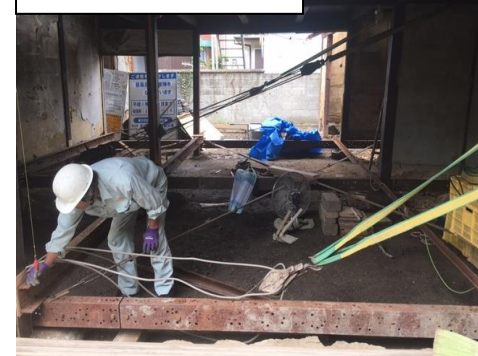
■発行：湯浅伝建地区保存協議会

■発行責任者：木下 智之

甚風呂旧借家棟（旧場野邸）の工事が始まっています

甚風呂の北側にある旧借家棟を修理し、展示施設などとして活用するための工事を行っています。現在は内側の壁を取り払い、大きく傾いていた柱を起こす作業が完了したところです。完成までの期間中、近隣にお住まいの方々にはご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をよろしくお願いします。

家起こしの様子



工事前の様子

国内外から視察団が！

今年度に入ってから、国内外を問わず視察団が湯浅町を訪れています。国外は中国山東省やスペインから、国内は近畿各地の官公庁担当者が来訪されました。歴まちや日本遺産認定で情報発信をしたことで多方面から注目を集めているようです。

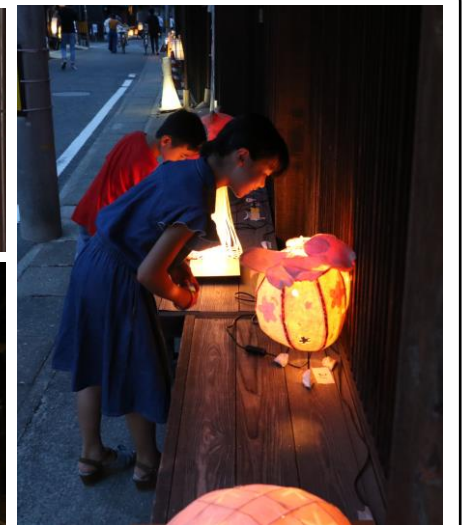
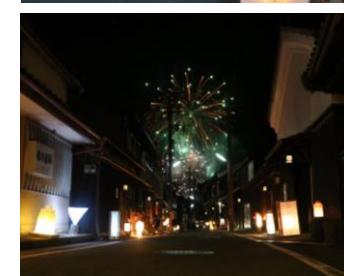


湯浅
まちなみ
の会

湯浅まつり・花火大会

北町通り 行灯ライトアップ

7月22日（土）湯浅まつり花火大会にあわせて行灯の設置を地区の皆さんのご協力の下おこないました。改良住宅跡地駐車場からはもとより、道町や御蔵町から歩いてこられる方も多く、まつりの行き帰りの道のを情緒ある行灯の明かりが彩りを添えていました。



第39回 全国伝統的建造物群保存地区協議会 in 茨城県桜川市 真壁 伝建地区

毎年行われている「全国伝統的建造物群保存地区協議会」（略称 全国伝建協）の住民プログラムに、木下会長、半邊副会長の2名が参加しました。今年は、5月24日（水）～26日（金）までの3日間、茨城県桜川市の真壁伝建地区を舞台に開催されました。全国伝建協の住民プログラムは、全国各地の伝建地区の住民たちが一堂に会し、自分たちが普段抱えている悩みや苦勞を打ち明け、ともに考える貴重な機会となっています。



歓迎レセプションの様子

桜川市真壁伝統的建造物群保存地区

桜川市真壁伝建地区は、茨城県の中部にあります。平安時代末期以降からこの一帯を支配した真壁氏は15世紀後半頃に真壁城を築城しました。関が原の合戦の後、真壁氏にかわりこの地を拝領した浅野氏は、2代目長重の時に城から代わって真壁町に陣屋を置きました。真壁の町は、この陣屋を中心に構成されています。江戸時代には月12回の市を開き周辺の産品が集まる在郷町として発展しました。明治には新たに石材業（真壁石）が中心産業となりました。天保8年（1837）の大火を契機に蔵造の町家が増え、現在見える蔵造の店舗や門、塀などによって多様な姿を見せる町並み景観が形成されていきました。桜川市真壁地区は、平成22年（2010）に重伝建の選定を受けています。



桜川市真壁地区（2009年撮影）

東日本大震災と真壁

平成23年（2011）3月11日、東日本一帯を襲った強烈な揺れは、桜川市にも甚大な被害をもたらしました。幸い、地区内でのけが人は出なかったものの、伝統的建造物の9割以上に被害が発生しました。桜川市では、大震災直前に重伝建選定を受けていたため、被害からの復旧には災害に伴う特別な措置によって補助率が上乗せされ、国や県、市の補助金を得ながら伝統的建造物の復旧が進められてきました。補助の内容としては、重伝建地区内の特定物件で総事業費が1000万円の時、それぞれの負担額は、国が650万円、市が250万円、県が75万円、所有者が25万円（所有者負担率2.5%）といった例が挙げられていました。

記念講演では、具体的な補助の状況や、災害からの復旧についてのお話もあり、近い将来起こると言われている南海・東南海地震の被害が予想されている私たち湯浅伝建地区にとって、今回の全国伝建協住民プログラムはとても有意義なものになりました。



今なお残る震災被害の状況

（右の写真は上（2009年撮影）の右側の建物）

全国伝建協 住民プログラムに参加して 参加者レポート

真壁地区で、最初に着手したのは、国の登録有形文化財を増やすことだったようです。1件ずつ登録数を増やしていき、合併前の真壁町では町村レベルで日本一の104件の登録有形文化財があったようです。その後、この登録有形文化財と真壁城址を含めた、歴史的風致維持向上計画の認定を受け施設の整備が行われ、平成22年に地域を絞って重要伝統的建造物群保存地区に選定されたとのことでした。

東日本大震災後、実際に復旧工事が本格化したのは震災後2年を経過してからの事で、被害物件の調査と復旧に当たる工事関係者の確保に時間がかかったようです。ヘリテージマネージャーの育成や建築士会との連携、職人の育成も日頃から取り組んでおかなければならない課題であるといえます。

また、隣同士の同じような構造の建造物でも、長い間手入れのしていない物件は今回の震災で大きな被害を被っているの、定期的な手入れが建造物を保存していく上で大切であると基調講演は締めくくられていました。

湯浅もいずれ東南海地震に見舞われることになると思いますが、重伝建地区外の物件に対して、登録有形文化財の登録をしておかないと価値のある建造物を失ってしまうことになります。早め、早めの取り組みで日本遺産に登録されたこの町を子孫に残せるように、行政と協力して取り組んで行かなければならないことを実感しました。



基調講演会場の様子

【湯浅伝建地区保存協議会 会長 木下 智之】

2日目の現地視察の上で、真壁の活性化に向けて参加者が感じたことを発表しあう分科会が開催されました。出た意見の主なものです。

1) 観光としてのまちづくりについて

子供たちにスケッチしてもらう街角展示などを行う。
町中に店舗が少ない。
女性客向けにスイーツを販売する店があれば。
真壁に行って会いたい人をつくりあげる。

2) 現状の産業を見直して真壁の良さを知ってもらう

石の活用を考えなければいけない。石畳とか、石の案内板とか。
子供を巻き込んだ石工房などで体験できるようにする。

3) 世代交代の中若者を巻き込んだ取り組みについて

真壁の人はおもてなしの心がある。引き継ぐための取り組みを。
若い人を含め、将来のまちづくりを行政と検討する。

4) 保存活動を行いながら、今の生活環境を見直してゆく

重厚な民家や門構えが多い。この歴史がわかればおもしろい。
自主防災の活動を活発に行い組織の大切さを知ってもらう。
女性の発想と行動につながるグループ作りが大切。



現地視察の様子

以上が大方の皆様の意見のまとめです。湯浅町の伝建地区に合う項目もいくつかあります。機会があるごとに実現に向けた取り組みをすることが存続にかかってくると思います。

【湯浅伝建地区保存協議会 副会長 半邊 宗五】